知事記者会見の概要

日　　時：令和7年4月25日（金）10:00～10:38

場　　所：502会議室

出席記者：11名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から2件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

(1) 水稲新品種「山形142号」の名称決定について

(2) 米国ハワイ州でのトップセールスについて

代表質問

(1) 市街地に出没したクマに対する銃猟に関する制度の見直しについて

フリー質問

(1) 県人口100万人割れの見込みについて

(2) 発表事項1に関連して

(3) 発表事項2に関連して

(4) 人口減少への対応について

＜幹事社：河北・共同・TUY＞

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。すっかり春となりました。本日からゴールデンウィークにかけて、気温の高い日が続く予報となっております。

県内では、4 月 19 日に、村山市で、今年初めて 25℃を超える夏日を記録したところですが、まだ身体が高い気温に慣れていない中で、熱中症のリスクが高まることが懸念されます。熱中症を未然に防ぐためには、のどの渇きを感じる前からこまめに水分補給を行うこと、また、外出の際は日傘や帽子等で日射しを避けることが重要です。

行楽シーズンを迎え、お出かけになる機会も増える時期でありますので、県民の皆様、特に高齢者の方やお子さんは、熱中症にならないようにくれぐれもご注意をお願いしたいと思います。

また、学校では、部活動などが本格化する時期でもありますが、個々の児童生徒の体調に十分目配りをするとともに、こまめな休憩時間の確保や、水分・塩分補給など、健康管理を徹底して、児童生徒の熱中症事故防止に万全を期していただきたいと思います。

それから併せまして、昨年は、4 月 28 日に高畠町、5 月 4 日に南陽市で大規模な林野火災が発生しました。これからレジャーや山菜採りなど、山へ入る機会も増えてくると思いますが、春は空気が乾燥して、火災が発生しやすい時季であります。

県民の皆様には、「火災が起こりやすい天候、強風であったり乾燥時であったりする場合には、たき火や野焼きをしない」「山でのたばこは控える」など、火の取扱いに十分注意を払っていただきますようお願いいたします。

それから、桜の盛りが過ぎて桜吹雪が舞い、代わってさくらんぼなどフルーツの花や、木々の新緑に彩られる季節となりました。爽やかな陽気に包まれ、初夏の気配に心弾む頃と思います。

さて、今月 29 日からは、大型連休ゴールデンウィークが始まります。県内では本日 25 日の、蔵王エコーラインと鳥海ブルーラインの開通を皮切りに、28 日には西吾妻スカイバレーも開通が予定されております。この機会に是非迫力のある雪の壁と、新緑の映える山々のコントラストをお楽しみいただければと思います。

また、ゴールデンウィーク期間中には、県内各地で様々な祭りやイベントが行われます。炭火で焼きたてのカド、ニシンのことをカドと呼びますけど、カドが味わえる「新庄カド焼きまつり」や、5 日のこどもの日には「はたらく車」が大集合する、山形市の七日町通の「スプリングフェスティバル」、また「米沢上杉まつり」では、開幕祭のスペシャルパレード、今回はディズニーも参加すると聞いております。ミッキーやミニーなども来るというふうに聞いております。そして、初の女性上杉謙信が導く上杉軍団行列が見どころとなっております。

他にも県内各地で様々な催しが予定されておりますので、県民の皆様をはじめ、県内外の多くの皆様にも、県内各地を訪れていただければと思っております。

☆発表事項

知事

ここで私から発表2点ございます。

まず、お米です。令和7年2月に発表した水稲新品種「山形142号」につきまして、ネーミング募集を行い、3 千件を超えるたくさんの応募をいただきました。その中から、このたび名称を決定しましたので発表させていただきます。

その名称は、これです。この「ゆきまんてん」というひらがな6文字であります。（補足：知事が名称の記載されたフリップを提示する。）よろしいでしょうか。「ゆきまんてん」であります。

これは、村山市在住の小学5年生の児童の方から、応募いただいたもので、「雪のように白く、美味しさ満点、笑顔満天のお米」ということで、「ゆきまんてん」と名付けたそうです。

この品種の白くて、大粒、美味しいという特徴をよく表しておりますし、何より皆さんが笑顔になれるような、とても素敵な名前を考えていただいたなと思っております。

この「ゆきまんてん」は、「雪若丸」を親にもち、「はえぬき」のひ孫にあたります。

今年度は、栽培マニュアル作成のため、県内各地で栽培試験を行いますとともに、令和9 年デビューに向けた振興方針について、生産・流通販売等関係者からの御意見も伺いながら決定してまいります。県民の皆様には、楽しみに待っていただけたらと思っております。

品種の特徴としまして、「はえぬき」よりも高温に強いとかですね、収量は「はえぬき」より1割程度多いとか、あと食味に優れ、白く、一粒一粒が大きい、しっかりとした食感、冷めても美味しいという特徴があります。収穫期は「はえぬき」とほぼ同じだそうであります。

もう1点は、米国ハワイ州でのトップセールスについて申し上げます。

5月21日から25日までの5日間、私を団長として米国ハワイ州を訪問し、トップセールスを実施してまいります。

本県では、2016年（平成28年）から米国ハワイ州で、県産米「つや姫」をはじめとする県産農産物等のプロモーションを実施しており、今年で10年目を迎えます。

今回の訪問では、10周年の記念事業で県産農産物等のさらなる認知度向上と定着・販路拡大を図るとともに、県産酒や本県の観光・文化も紹介するなど、山形県の魅力を発信してまいります。

このたびのトップセールスにより、県産農産物等の輸出拡大やインバウンドの拡大など米国ハワイ州と山形県の相互交流の促進につなげてまいりたいと考えております。私からは以上です。

すいません、冒頭で1つ注意喚起をさせていただきたいのがあります。ツキノワグマについてです。

これからゴールデンウィークを迎え、行楽や山菜採りなどで山に入る方が増える時期であ

ります。クマが冬眠から覚めて活発に活動する時期でもありまして、クマに遭遇する危険性が高まります。

県民の皆様には、山に入る際は複数で行動することや、クマ鈴(すず)等の音が出るものを携行すること、万が一、クマに遭遇してしまっても、背を向けずに、ゆっくり後退することなど、お一人お一人が身を守る行動をとっていただきますようお願いいたします。

また、市街地での目撃も多くなることから、屋外に生ゴミなどのクマの餌になるものを放置しないなど、クマの出没防止のための対策も併せてお願いします。

なお、本日、クマによる被害の未然防止や被害対応に迅速かつ的確に対応できるよう、県の関係課による「第１回総合クマ対策推進チーム会議」を開催いたします。午後の１時半からということであります。報道機関の皆様方にはぜひ取材をしていただいて、県民の皆様への周知をよろしくお願いいたします。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

共同通信の中村です。

今、クマの注意喚起のお話もありましたが、そのクマについてちょっとお伺いします。市街地に出没したクマの銃猟を市町村の判断で可能にするという改正鳥獣保護管理法が国会で可決成立しました。山形県でも、お話あったようにクマの目撃が相次ぎ、また山菜採りの季節で、ハンターの高齢化や確保というのも課題になっているかと思います。知事として、今回の法改正について、どういったことを期待して、また、どういった課題があるということを認識していますか。

知事

はい、分かりました。ではお答え申し上げます。

近年、クマ等の市街地等への出没が増加し、住民生活に影響を与える事例が増加しております。

これまで、市街地等における銃猟、銃による捕獲のことを銃猟といいます。その銃猟が禁止されておりましたが、この度の鳥獣保護管理法の改正により、クマ等の危険鳥獣に限り、一定の条件の下、市町村長の判断で銃猟が可能となります。クマ等が人の生活圏に侵入する事態に際し、より安全かつ迅速な対応が可能になるものと期待しております。

一方で、銃猟実施の判断や、地域住民の安全確保など、現場での対応が大きく変わりますので、今後示される政府のガイドラインを踏まえ、県としてもクマの市街地出没時の対応指針を改訂するなど、市町村が円滑に対応できるよう支援してまいりたいと考えております。

また、御指摘いただきました担い手の確保につきましては、以前から課題と認識をしております。新規狩猟者への猟銃等の購入経費の補助や、県の猟友会が主催する狩猟免許講習会

の開催への支援等に取り組んできたところですが、その結果、狩猟免許の所持者数が10年前は1,793人でありましたけれども、そこから2,266人に増加するなど、一定の成果を上げております。473人増えたというようなことでありますけれども、一定の成果を上げたと思っております。

さらに今年度は、射撃訓練で用いる弾薬に対する助成の拡充や狩猟免許試験の実施回数を4回から5回に増やすなど、担い手確保に向けた取組みを一層強化してまいりたいと考えているところであります。

記者

ありがとうございます。今のお話の中で、政府のガイドラインを受けて、県の対応指針を改定するというお話もありました。それは、政府のガイドラインを受けて現場の対応を、より柔軟にできるように県としては支援していくというようなことですかね。市町村の柔軟な判断に向けてどういう支援をしていきたいかというのは、具体的にどうでしょうか。

知事

そうですね。ひとつにはやはり、政府、環境省でありますけれども、ガイドラインを作られるということでありますので、それを踏まえて、県としても対応指針を改定するということで、市町村が円滑に対応できるよう支援していきたいと考えております。

また、鳥獣被害防止体制の整備というようなことについてもですね、市町村と県と一緒になって、検討を重ねてしっかり考えてまいりたいと思っております。

記者

はい、分かりました。1時半からの会議は、情報共有といった感じなのでしょうか、どういった内容になりますか。

知事

そうですね。今日の1時半からと聞いておりますので、そのポイント、内容ですね、改正内容をやはり共有するということと、今後の対応について、県と市町村とでどういうことを検討していくかという話し合いになるのかというふうに思っています。

（補足：当該「第1回総合クマ対策推進チーム会議」の内容は、県の関係課によるクマの市街地出没時の対応等の確認であり、市町村は参加していない。記者会見終了後、環境エネルギー部次長により訂正。）

☆フリー質問

記者

NHKの風間です。よろしくお願いします。

一昨日の常任委員会でですね、県の人口について、来月、100万人を下回るのではないかという見通しが出ました。これまで人口減少は大きな課題となってきていると思うのですけれども、このタイミングで人口が100万人を切る見込みとなった根拠とですね、あと、知事のそれについての所感をまず教えていただけますか。

知事

はい、分かりました。

4月1日現在の推計人口は今月末の公表に向けて精査中であり、概算によりますと、100万人を下回らない見込みとなっております。が、例年の人口減少数というものを勘案すれば、5月1日現在の推計人口においては100万人を下回るのではないかと見込まれるところであります。

本県の人口は、大正14年に100万人を超えました。それ以前は人口が100万人以下だったということになりますが、歴史的に見れば、一つの通過点とも言えるわけであります。

一方で、この100年間ですね、約100年間100万人台をキープしておりましたので、100万人を下回るということは、県民の皆様にとって大きな心理的衝撃になるのではないかというふうにも思っております。

そういった人口減少の中にありましても、県民の皆様がマイナス思考に陥らないで、未来に向かって明るい展望を抱いて、主体的に行動していくということが大変重要だというふうに考えております。

このため、県では、今年3月に策定した第4次山形県総合発展計画の「後期実施計画」に基づいて、人口減少のスピード緩和に取り組む「抑制策」と、それから、減少が進む中にあっても生活の質と地域活力の維持向上を図る「対応策」、この両面から取組みを進めていくこととしております。

具体的には、若者・女性の定着・回帰や、移住・定住の促進、そしてまた、外国人材の受入拡大・定着に取り組むなど、人口減少対策を強化してまいります。

あわせまして、人口減少対策をより実効性のあるものとしていくため、今年度新たに「『県民まんなか』みらい共創カフェ」というものを開催してまいります。県民各層から、各年代の方からご意見を伺うのですけれども、特に、若者・女性からですね、山形でどういったことをしたいか、どういったことを望むかということや、元気な山形県を作るにはどうしたらいいかというような、皆さんそれぞれのお考えをお聴きしまして、共に考え、共に創っていきましょう、と。要するに、共に生きる、共に創る、「共生」「共創」×「挑戦」というのが、後期計画に通底している考え方なのですけれども、そういったことをしっかり取り組んでまいりたいと思っております。

人口減少というのは、地域社会や暮らし、経済活動などに直接かかわる重要な課題でありますので、「県民視点」「現場主義」「対話重視」の姿勢に立って、市町村や県民の皆様と一緒になって、積極的に取組みを進めてまいりたいと考えております。

記者
　ありがとうございます。今のお話を聞くと、知事としてはやはり、特に若者と女性の流出というか、これだけ人口が減ってきている、その背景としては何がやっぱり一番大きい課題だなというふうに感じてらっしゃいますか。

知事
　そうですね。一番はやはり県外流出という時にはですね、進学と就職で流出するということが大変大きいです。そういったことでさまざまな大学、高等教育機関とかですね、あと、企業の地方分散といったことを従前から知事会の中でも提言もしてきましたけれども、なかなかそこは進まなくて、それで県としてできる限りのことをしてきたというのはやはり、米沢栄養大学を設置したり、また、東北農林専門職大学を設置したり、あとは、大学院を作ったりそれを拡充したりといったことで、進学できる先というようなことを県内にできる限り増やしてきたということがあります。
　ただ、地方自治体でね、何百人何千人というふうに受け入れるほどの施設はなかなか大変なところでありますので、できる限りやってきました。あと企業誘致とかですね、そういったことにも力を入れてきましたけれども、でもやっぱり、なかなか社会減のところがですね、埋まっていかない。首都圏集中、東京一極集中ということはですね、ずっと続いている日本全体の問題であるというふうに思っています。このままいくと、本当に地方のほうがどんどん人口減少で、地域社会もですね、元気がなくなるというようなことになってはいけないと思いまして、私の5期目の取組みでは、やはり、関係人口や交流人口を拡大したり、外国人材の活用といったこともしっかりと取組んでいくということにしているところです。
　まず、めげないで、前を向いて、県民の皆様と一緒になってですね、元気で暮らしやすい山形県を作っていきたいというふうに思っています。

記者
　読売新聞の仲條です。よろしくお願いします。
　山形142号の命名の件なのですけれども、このネーミングについて、知事が最初聞いた時の率直な感想と、どんなお米として県内外の方々に食べてほしいなというふうに思われますでしょうか。

知事
　そうですね、これ、平仮名なんですよね。「ゆきまんてん」と平仮名でね、すごくこう優しい感じを受けましたね。そして、子ども、小学5年生の方が考えてくれたということで、非常に明るくて元気が良いというイメージを受けました。お米に対して大変愛情を感じているお子さんではないかなというふうに思っています。非常にいい名前だなと。「ゆき」は雪国で、「ゆき」がつくと大体美味しそうな感じがしますし、「まんてん」というのがまたね、「満天

の星」とかですね。あと「テストが満点」とかですね、「まんてん」というのは非常にいいということで、満面の笑みがこぼれるような、本当に素晴らしい柔軟なその発想から生まれた名前だな、やはり子どもさんは柔軟だなということを思いました。その時に農林水産部とかですね、何人か担当の方々と一緒に話し合って、これはいいですねというふうに一致したところであります。

それで、どういうふうに販売していきたいかとかですね、どういうふうにPRしていきたいかということについては先ほど申し上げましたけれども、令和9年デビューに向けた振興方針について、生産・流通販売等関係者からの御意見も伺いながら決定していきたいというふうに思っています。

記者

すみません、山形新聞です。

まず人口のところからなんですけれども、やっぱりこれは県、市町村で一体的に取り組んでもある意味難しい、限界があると思います。その上で改めて政府、国のほうに求めたいことというのがあれば教えていただきたいと思います。

知事

そうですね、やはり政府として地方と一体となってね、この人口減少に対する取組み、本当に本気で取り組んでいただきたいなと思っておりましたけれども、そういうふうに取り組んできてくださるようになってきたなというふうに思っています。市町村や都道府県、地方はですね、本当にこれは死活問題でありますので、もう10年、20年前から取り組んでいるわけなのでありますけれども、ただ、本当に1つの町や1つの県だけでこれが解決するようなことではないというふうに思っています。

しかも「これをすれば大丈夫」というようなこともなかなか見当たらないというところでありまして、何回か高等教育機関をですね、地方に展開してもらったり、企業も地方のほうに本社を移動させてもらいたいといったことで、政府もそういったことも取り組んでいただいたかもしれませんけれども、実際はなかなか動かないというのが本当でありまして、やはり人口のあるところに高等教育機関や企業が集中しているというのが日本の実態であります。

やはりそれをどういうふうにしていくかというのはなかなか難しいことではありますけれども、例えばですね、やはり賃金を全国一律にする。少子化対策イコール雇用対策だとも言われています。どうしても賃金の高い方に人は流れるというようなこともあります。それは就職のことを考えた場合ですけどね。だから進学先を地方に増やすというのと、やはり就職先を地方に増やす。そのためにやっぱり賃金を全国一律にする、あるいは業界別にでもいいから賃金を全国一律にするといったことをずっと提言してきているんですけど、実現していません。なかなか進まないものだなと実感をしております。

それで地方自治体でできる限りのことをやらなければいけないということがあります。1

つには先ほど申し上げた県内で進学先を少しでも増やすというようなことと、それから県内の経済界に働きかけてですね、若者・女性が働きやすい職場づくりといったものを、賃金も含めての職場づくりというものを一緒にやっていきたいと思っています。

それから、やはり外国人材の活用というものも本当に本気で取り組まなくてはいけないと思いまして、山形県多文化共生推進プランというものを昨年度作成し、今年度から実行していくこととしておりますけども、先進国を見ますと、やはり移民といったことで人口を維持したりしております。そういったいろいろな課題も多いのですけれども、ただ、外国人材、働き手不足ということがありますので、大いに外国人材も活用するというような方向で県としてもしっかり支援をしていきたいというふうに思っております。

本当にいろんなこと、取り組んでいかなければいけないことが山積しておりますけど、一つひとつしっかりとそれぞれの業界であったり、分野であったり、皆さんと一緒になって取り組んでいきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。あともう1つ、話が変わってハワイでのトップセールスでお聞きしたいと思います。

非常に今トランプ関税等々で国際情勢が非常に不安定な中ではありますけれども、改めてその10周年を節目ということでどんな点を重視してPRして、成果を持ち帰ってきたいかというような考えがあれば教えてください。

知事

はい、わかりました。例えばですね、内容的な10周年記念レセプションというものを考えておりますけれども、1つには、これは在ホノルル日本国総領事公邸というのがございますけど、1回目も確かそこをお借りしたと思います。今回もその総領事公邸を会場に現地輸入バイヤーや日本食レストラン関係者、旅行会社、市内の短期大学関係者等を招待して県産食材や県産酒の提供、山形県の観光文化を紹介するといったことを行ってくる予定であります。

ハワイというのは非常に親日的でありますし、お米も大変消費する。日本人が1年間で平均して55キロ消費するらしいんですけど、ハワイだと45キロ消費すると聞いておりますので、しかも日本からの旅行者もたくさん行くわけでありますので、まだまだ市場として見込めるのかなと思っています。

相互関税の影響も懸念されるところでありますけれども、10年かけてですね、ハワイ州におけるトップブランド米としての地位が定着してきていると聞いております。現地輸入パートナーはじめ、これまで築いてきた人的ネットワーク、これが途切れることがないように継続的なプロモーションを行うことが大事だというふうに思っております。つや姫大使なども任命してですね、しっかり関係性を築いていきたいというふうに思っています。

記者

河北新報の八木と申します。よろしくお願いします。

先ほどの人口減少の話に関連するんですけれども、人口減の中の対応策というところで、県内に進学先を増やす取組みですとか、また外国人材の活用ですとか、そういうお話、県の施策としてあるというふうに知事はおっしゃっていたかと思うんですけれども、先ほど知事もおっしゃっていましたが、やはり他の国とかを見ると移民でなかなか課題もあるというふうに言及されていたかと思うんですけれども、外国人材の活用というのを山形で進める上でその課題というのはこれからどういうふうに解決していくのかというのを、何か今考えていらっしゃることがあればお伺いしたいです。

知事

そうですね、やはり外国の方ですね、最初は働き手として、あるいは留学生として来ていただくことになりますけども。最初ですね、留学生をまず増やそうと実は思ったんでした、もう10年も前になりますけど。そうしたらうちの県は留学生の数が全国最下位だったんですよ。それで私も衝撃を受けましてね、大学の皆様方と一緒になって増やしていきましょうというようなことを申し上げてきました。これからもやはり高等教育機関の皆様のお話をお聞きしながらしっかり増えるようにサポートしていきたいと思っています。それで県内で就職して、できればね、就職していただけるように考えていきたいというふうに思っています。

あと各業界で、製造業でありましたり、介護分野でありましたりいろいろ、農業もようやく試行、トライアルということで昨年度から県がサポートして、農業のほうにもですね、外国の方に来てもらうということを始めました。今年もそれを継続してまいります。

やはり実際に外国人の方と接することで見えてくるものもありますので、ノウハウ等を蓄積してですね、しっかり対応できるように県はサポートしていきたいというふうに思っています。

西日本の話などを聞きますと、農業も外国人なしではもう進まないというようなことも九州の方からお聞きをしました。これはもう全国の状況がそうなってくるのではないかというふうに私は思いますので、やはり同じ人間として、そしてできるだけ皆さんがですね、コミュニケーションできるようにして、そして山形で働いてよかったとか、山形でいろいろな文化交流ができたり、いい思い出ができたとか、あるいはゆくゆくは家族帯同で来ていただくというようなことにもつなげていければいいなというふうに思っていますので、市町村の皆様と一緒になって取り組んでいきたいというふうに思っています。

記者

要するに、一緒に農業とか、接することで見えてくる課題とかをコミュニケーションを取ることによって、できる限り解決していきたいというか、そういう方向性ということでよろしいでしょうか。

知事

　そうだと思います。やはりコミュニケーションを取ることで見えてくると思います。非常に具体的なことですけど、ある町の町長さんからですね、お聞きしたことは、ごみの分別が一番大変だと。日本はゴミの分別が、特に山形県はしっかりしているんだけど、外国はそういうことがあまりないので、分別をあまりしないということでそこが大変課題だとおっしゃっていたのを覚えているんですけどね。非常に具体的な、やっぱり日常的なことでしっかりコミュニケーションを取って、やはり一緒に共生社会というものを築いていく必要があるのではないかと思います。